

2008 年第二回定例議会個人質問原稿

2008.6.18 椿くにじ

1,北区のまちづくり政策について

- 1)高齢者住宅政策について
- 2)北区住宅マスタープランについて
- 3)北区都市計画マスタープランについて

2,北区の教育政策について

- 1) 伝統文化を取り入れた学校教育について
- 2) 小中一貫教育について

3,北区の環境政策について

- 1) 地球温暖化防止について
- 2) ゴミの減量化について
- 3) グリーンコンシューマと環境教育について

昨年の9月の初質問につづき二回目の個人質問をさせていただきます。

今回は「まちづくり政策」「教育政策」「環境政策」の大きく3点について質問いたします。

大きく一点目として「まちづくり政策」について3点の質問いたします。

まず初めに「高齢者住宅政策」についてです。

近年高齢者を取り巻く住宅環境は益々厳しい状況であるといわざるを得ません。戦後供給されてきた民間の木造アパートや区営・都営の集合住宅等も近年取り壊し建て替えが進み、家賃を上げなければならない状況となり、年金やわずかな蓄えで生活をする高齢者にとっては住みたくても住めない状況にならざるを得ません。

北区はシルバーピア事業として15団地に287戸の高齢者住宅を管理しておりますが、年間に約4億円の管理費に対して6000万円程度の家賃収入しか無い状態です。これでは新しく施設を増やすことは出来るはずもありません。またファミリー層の定住促進と高齢者の居住の安定を図るため、「三世代住宅建設助成」を初めとして総額約5000万円程度の様々な助成制度を設けております。しかし利用率と効果からするとこれらも抜本的な改善策とはならないのが現状であります。

そこで提案です。北欧で生まれ、アメリカで育ったコミュニティーを取り戻そうという住まい作りの手法と住まい方「コウハウジング」という考え方があります。住みたい人たちが集まって一緒に住まいまちをつくります。「コウハウジング」の「コウ Co」とは一緒に、平等に、という意味です。プライベートの個室などは小さくてもリビングやキッチンなどパブリックの部分は共有して、交流を楽しみ助け合いながら住まうライフスタイルです。まさに江戸時代の長屋暮らしの現代版コミュニティーとも言えます。特長としては土地取得からプランまで住民が参加し、キッチンやリビングなど共有スペースは開放的に作りいつでも自由に入出りができる。管理や食事の準備も自分たちで行う。環境に配慮して自然エネルギーを利用する。お互いに自立すべきところは尊重し、助け合うところは共生する住まいかたです。

これは決して高齢者だけの住まい方ではなく若い人から年齢を重ねた人まで、様々な世代が共に住み知恵を出し合い、助け合いながら暮らす住まい方です。

北区では十条地区を初め西ヶ原・志茂地区など木造密集地域での共同建て替え

促進、さらに小中学校の統廃合利活用にこの「コウハウジング」という考え方を取り入れ、高齢者住宅政策と合わせて検討することは大きな意味を持ちます。そこで質問です。さらなる少子高齢社会を迎えるなか高齢者住宅政策について北区はどのようにお考えか区長の見解をお聞かせください。

次に「北区の住宅マスタープラン」について質問します。

北区では平成5年(1993)3月に「誰もが、安心して、生き生きと暮らし続けられる、ゆたかな住生活の実現」を基本理念に第一次住宅マスタープランを策定しました。さらに平成12年(2000)3月に新たな社会経済情勢に対応した、的確・効果的な住宅施策を展開するために第二次住宅マスタープランを策定されております。

先般の第一回定例議会に於いて「東京都北区集合住宅の建築及び管理に関する条例」を制定されました。この中で居室最低面積を25㎡以上とし、ワンルームの定義を40㎡未満と定めております。これは国が定めた「住生活基本法」の数値から当てはめた訳です。しかし良質な住環境は床面積数値のみによって図られるものではなく、狭くても駅から近い、家賃が安い、商店や公共施設が利用しやすいなど様々な要因から図られるものです。全国一律に同一数値をもって規制することはあまりにも安易な考え方と言わざるを得ません。良質な住環境は多種多様な生活スタイルを選択出来ることでもあります。さきほど「コウハウジング」という住まい方を提案しましたが、これなどは条例の枠を越えた考え方であり、多様な生活スタイルが住宅建築の在り方を変え進化して、良質な住環境に結びつくものと考えます。

そこで質問です。北区が策定した第一次住宅マスタープランから第二次そして現在まで、住宅マスタープランがどのように生かされ効果が現れたのか？また今後策定される第三次マスタープランではどのような政策をお考えか区長の見解をお聞かせください。

次に「北区都市計画マスタープラン」について質問します。

北区では昭和61年「北区都市整備構想」にはじまり「まちづくりブロック構想」を策定して、平成12年(2000年)「次世代に継承する安全快適で活気あるまち北区」を基本理念に「北区都市計画マスタープラン」を策定しております。その中で、7つの目標を上げ、各方針に分けて提唱して最後に「構想の実現

に向けて」でまとめております。これは大変良くできた「都市計画マスタープラン」であると思います。しかし、この十年で北区の街はどのように変化し進化してきたのでしょうか？具体的に用途地域の抜本的な見直しを行い北区の街をどのように創るのか北区が夢を示さなければ「都市計画マスタープラン」の見直しは意味をなさないと考えます。また地区計画の名の元に住民の意見を安易に取り入れすぎて、街の将来像を強く示さなかったことも問題ではないでしょうか？街は生き物です。子育てと同じでしっかりした生き方を示さなければ好き勝手な方向へ向かい、30年50年のスパンで取り返しの付かないことになります。2016年のオリンピック招致に東京は環境をテーマに成熟都市の姿を示そうとしております。まさに北区は国立スポーツ科学センターや西が丘サッカー場などスポーツ関連施設が多くこの機に環境都市先進区のイメージアップを図るべきです。また昨日の都議会に於いてJR十条駅踏切の立体交差化が実現に向けていよいよ動き出したと聞いております。これはまさに補助83号線事業がスタートし、西口開発準備組合が設立され、さらに10億円の十条まちづくり基金が創設されたことによる効果でもあります。

この機会に今後北区が本気で目指すべき理想の街を明確に示し、どのようなスケジュールと手法で具体的に進めていくのか？用途地域・建坪率・容積率・高さ規制を含めて今回の「都市計画マスタープラン」の見直しでしっかり示すべきだと思いますが区長の見解をお聞かせください。

続きまして「教育政策」について二点質問いたします。

まず一つ目は「伝統文化を取り入れた学校教育」についてです。

日本人として生まれたにも拘わらず自国の文化への理解も知識もないのでは真の国際性など生まれることもなく、日本人の誇りも無くなってしまいます。そのことがアイデンティティーの欠如となり世界の中での日本の立場を弱めてしまうことにも繋がります。

先日、品川区で茶道を取り入れた伝統文化教育を視察してきました。

品川区では「自らの在り方や生き方を自覚し、生きる筋道を見つける」人生観の構築を目指して平成18年より「市民科」という授業をスタートしました。その市民科の授業の中で、茶道を通した伝統文化教育を行っております。挨拶や人を思いやる心など日本の文化を心と体で実践できる茶道が最も適していると判断して三年生と四年生のクラスに年一回茶道授業を行こなっております。

本来であれば家庭で教えるべきことが、出来なくなっていることに問題があります。しかしそれができないのであれば学校で教なければなりません。そこで質問です。学校教育の中に茶道を初めてとした伝統文化教育をさらに取り入れるべきと考えますが教育長のお考えをお聞かせください。

二つ目は「小中一貫教育」について質問します。

北区では平成 10 年 5 月に「北区教育ビジョン」を策定し、平成 18 年には「北区教育ビジョン 2005」及び「推進計画」を策定しました。このビジョンでは「生涯にわたり学び合い、育ち合う学習社会」「共に支え合い共に結び合う連携社会」「一人一人が地域社会や国際社会に寄与する貢献社会」を目指しております。新しい都市型学校施設として全国的にも有名になった京都市立御池中学校を視察してきました。ここは同一建物内に老人デイサービスセンター・乳幼児保育所・事務所・店舗などが入り PFI 手法によって生まれた複合施設です。中学生と近隣の小学校 2 校の 6 年生のみが同じ校舎で学んでおり、小学校から中学校へ環境の変化による児童の不安感を軽減するためにも効果を上げており、義務教育 9 年間を見通して一貫した教育を行っております。

北区においても「北区学校ファミリー構想」では通学区域の重なる小学校と中学校からなる近隣複数校のネットワーク作りをすすめ、一校だけではできない質の高い教育を目指して始めた仕組みが、平成 15 年 7 月に策定されております。そこで質問です。北区が進めてきた「学校ファミリー構想」の成果と問題点を踏まえて、北区が小中一貫教育をどのよのように考え進めていく予定なのか教育長のお考えをお聞かせください。

最後に北区の「環境政策」について 3 点質問いたします。

まず一点目は「地球温暖化防止」についてです。

1997 年 12 月に京都で開催され、二酸化炭素 (CO₂) など 6 種類の温室効果ガスについての排出削減義務を定めた、いわゆる「京都議定書」において、日本は 1990 年を基準としてマイナス 6% を義務づけました。しかし現在の数値をみると逆にプラス 6% という状況です。ちなみにアメリカはマイナス 7% を目標にしながらプラス 16%。一方ドイツはマイナス 25% がマイナス 18%。イギリスはマイナス 23% に対してマイナス 15% であります。この数値をみても明らかな通り、欧州は一定の成果を上げております。

そこで質問です。北区の二酸化炭素削減量の目標数値はあるのか？また地球温暖化防止策として北区はどのような取り組みを考えているのかお聞かせください。

次に「ゴミ問題」について質問します。

日本にはゴミ焼却場はいくつあるのかご存じでしょうか？

アメリカ 168、フランス 100、ドイツ 51、スウェーデン 21、イギリス 7、そして日本は 1769 です。実に世界のゴミ焼却場の約 75%は日本にあります。

2001年にリサイクル法が始まりました。しかし日本は世界標準の先払い方式ではなく後払い方式をとったため不法投棄が増える結果となってしまいました。日本以外の先進国ではゴミは有料でその量に比例してゴミ代が高くなりますので必死でゴミを減らそうとします。しかし日本では企業責任がなく市民もゴミ代はタダとの感覚ですから減ることがありません。この考え方を改めない限りゴミは決して減りません。欧州では「1,Refuse リフューズ (やめる)」「2,Reduce リデュース (減らす)」「3,.Reuse リユース (再使用)」「4,Recycie リサイクル (再生・再資源化)」の「ゴミ 4 原則」の考え方が浸透しており、作ったゴミは企業の責任、持ち帰ったゴミは市民の責任です。スーパーなどでも野菜や卵もすべてばら売りです。容器を持っていくと量り売りで中身だけ買うことができます。ですから買い物袋 (エコバック) も自然と持って行きます。でも振り返ってみると日本も 40 年ぐらい前まではばら売り・量り売り・買い物かごは当たり前だったように思います。経済が発展し便利になった一方で環境負荷を増大させてきたことになります。

先日ある記事で「えどがわ油田開発プロジェクト」という非常に興味深い見出しをみて、なんのことかと思い早速視察に行ってきました。これは使用済み食用油を精製してディーゼルエンジンに利用するバイオディーゼル BDF (Bio Diesel Fuel) のことです。

油田とは小中学校の給食室や区内の天ぷら屋さん・豆腐屋さんなどのことです。まだ一般家庭への開発が進んでいないので大油田開発の余地は大いにありと力強く語っておりました。

植物油からできるバイオディーゼルは燃焼しても CO2 の発生がプラスマイナスゼロ、つまりカーボンニュートラルで環境負荷がない環境にやさしい燃料です。

精製機器の設置費用も数百万程度で済み、大きなスペースも必要としないので地域と一体となった回収システムさえ確立できれば、継続的な事業としても収益性も確保できます。ただそれ以上に区民への環境問題への意識付けには「油田開発」というネーミングが夢のあるプロジェクトになっているように感じました。

この4月から北区でもゴミの収集方法が変わり、区民がゴミ問題を考える機会ができたと思います。そこで質問ですが、ゴミ収集システムが変わったことでゴミの量に変化はあったのか？また区民のゴミ意識はどのように変わったのか？ゴミの有料化は検討しているのか？北区としてゴミ問題を今後どのようにとらえているのか？さらに提案した使用済み食用油のバイオディーゼル BDF 利用の可能性はあるのか？見解をお聞かせください。

最後に「グリーンコンシューマーと環境教育」について質問いたします。

「地球温暖化防止」「ゴミ問題」など質問してきましたが、つまりは区民の環境への意識がどれだけあるかが問題です。どれほど地球環境の危機的データや状況を訴えても他人事で終わってしまっただけでは意味がありません。自分のこととしてまずできることから行動することが大切です。そのためにはグリーンコンシューマー（環境意識の高い人々）をいかに多く育て、環境教育を進めることが必要です。やはり小さいときから家庭でそして小中学校で一人一人が出来ることを教えていくべきです。

京都で2007年9月から今年の2月まで実験的に実施されていた「きょうとエコ貯」について視察してきました。

これはインターネット上で省エネした項目を自己申告してCO2を何グラム削減したかでポイントがつき、提携商店から割引を受けられるシステムです。CO2の削減量からすればわずかな数値ですが地域の商店と一体になって環境問題を考える機会としては興味深い取り組みです。環境教育に家庭・学校・地域・企業・行政が連携して本気になって取り組まなければ間違いなくこの地球は終末へ向かってしまいます。50年後100年後のことを今考えなければ未来はありません。学校教育に伝統文化を取り入れるのと同じように心の教育が必要であり、環境教育をさらに進めるべきと考えますが区長のお考えをお聞かせください。

以上「まちづくり政策」「教育政策」「環境政策」の三点について質問させていただきました。ご静聴ありがとうございました。